Message in a Bottle

北九州港 NEWS

NEWS & INFORMATION KITAKYUSHU PORT

Kitakyushu Port Promotion Association

PORT OF KITAKYUSHU

30 号

2020.08

日明・海峡釣り公園（小倉北区）

＊30 号のコンテンツ＊

P2＊＊＊ＪＲ門司港駅前で電動アシスト自転車のレンタサイクルを実施しています！
P3＊＊＊フェリー（新門司～神戸航路）に新造船「やまと」就航
＊＊＊令和２年 北九州海の日協賛会海事功労者表彰式を開催しました
P4～5＊トップ・インタビュー～㈱アウルズ　代表取締役社長　木下 彰子さん～
P6＊＊＊運用管制官 「管制課程１期生」
P7＊＊＊新会員のご紹介
＊＊＊スナＱマスク好評発売中
P8＊＊＊編集後記

JR門司港駅前で電動アシスト自転車のレンタサイクルを実施しています！

昨年開港 130 周年を迎えた北九州港（門司港）は、「みなとオアシス門司港」として国土交通省に登録され、西海岸～門司港レトロ地区の 16 の登録施設を中心に「みなと」を核としたまちづくりの推進に取り組んでいます。これらの周遊性を高めるため、令和２年度事業の一環として、ＪＲ門司港駅前で土日祝日限定で電動アシスト自転車のレンタサイクルを実施しています。新しい生活様式※に対応した移動手段（自転車）で、みなとオアシス門司港の登録施設を巡って、門司港エリアを散策してみませんか？

※新型コロナウイルス感染症対策のため三密の回避など、国民一人ひとりの意識と行動が求められている中、政府が発表した「新型コロナウイルス感染症対策の基本対処方針」の中で、まん延防止のための移動手段の一つとして、自転車での移動（通勤・通学含む）が推奨されています。

【レンタサイクル実施概要】

（1）実施日：土日祝日　10：00～17：00
　※年間スケジュールについては HP をご覧ください。
　https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kou-ku/30400058.html
（2）場　所：ＪＲ門司港駅噴水広場横（門司区西海岸１丁目 5-31）
（3）対　象：中学生～79 歳　※高校生以下は保護者の同意が必要
（4）台　数：30 台
（5）利用方法：駅前の受付テントにて受け付けます。当日申込可。
（6）料　金：800 円（一日・人）　※電子マネーは Paypay に対応しています。

《申込・問合せ先》・NPO 法人 I-DO（アイディオ）093-321-2272
・北九州市港湾空港局総務部 クルーズ・交流課 093-321-5939

（参考）みなとオアシスとは

みなとオアシスとは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するものです。現在、全国で 140 の港が登録されています。（R2.7.26 時点）

※雨天の場合は、時間・内容の変更や開催を中止することがあります。

電動アシスト自転車

フェリー（新門司～神戸航路）に新造船「やまと」就航

７月１日、阪九フェリー（株）により、北九州（新門司）～神戸を結ぶ定期フェリー航路に新造船「やまと」が投入され、北九州港（新門司）に初入港したことを記念して、歓迎訪船を実施しました。

神戸航路への新造船の投入は本年３月の「せっつ」に続くものです。

「やまと」は船体の大型化とともに、在来船と比べ約６%の省エネルギーを実現。排ガス処理装置（スクラバー）も搭載し、環境面にも配慮しています。

内装は門司港レトロをイメージしたものとなっています。

「やまと」の就航により、阪九フェリーの運航船がすべて大型新造船となり輸送力がさらに向上しました。近年のトラックドライバー不足や企業の環境意識の高まりからニーズが高まっているモーダルシフトの受け皿として期待されています。

新造船「やまと」

＜新造船の概要＞

総トン数：約 16,300 トン
全　　長：195m
速　　力：約 23.5 ノット
積載能力：トラック 277 台、乗用車 188 台、旅客 663 名

歓迎訪船の様子

令和2年 北九州海の日協賛会 海事功労者表彰式を開催しました

表彰式の様子

令和２年７月30日（木）ＡＩＭビル新館３階「３１１会議室」にて「令和２年 北九州海の日協賛会 海事功労者表彰式」を行いました。

例年、九州運輸局、九州地方整備局、第七管区海上保安本部との合同表彰式として行っておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、三密を避けるため、各団体ごとの開催となりました。

本年の北九州海の日協賛会会長表彰の受賞者は企業・団体から 21 名。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各企業・団体から代表者 1 名の方にご出席いただき、代表受領による表彰式となりましたが、北九州海の日協賛会　鶴丸会長から出席者お一人お一人に表彰状が授与されました。

継続と情熱は力なり

㈱アウルズ　代表取締役社長　木下（きのした）　彰子（あきこ）　さん

■北九州市の今後の発展に必要なものは

私が子どもの頃と比べると、北九州市の街はほんとにきれいになりましたね。そして、道路が素晴らしい。どこまで行っても道が良いし、都市高速からも街に行きやすいですよね。

北九州市には素晴らしい人もいっぱいいるし、いいものもいっぱいある。けれど昔から控えめすぎて PR が下手。「北九州市にはこれがある。ここすごいでしょ！」っていうのを、プラス思考でもっとどんどん前に出したら、みんなの気持ちが高まると思うのです。だから、もっと図々しく PR したらいいと思います。

若者が集まるには、魅力的な大学の数が増えるといいだろうし、やっぱり、人が集まってくる街になるといいですよね。まだまだ成長できるところはいっぱいあります。人間と同じで、止まることはないのだから。

■アウルズについて

平成元年に設立し、今 32 年目です。翻訳・通訳・教育・コンサルの 4 部門で始めた会社は、現在、従業員が約 240 人。うち、約 200 人は外国人です。主に学校での英語教育のほか、英語のキャンプや国際会議等の事業を行っています。

私は若い頃からフリーランスで英語を教育したり、翻訳や通訳の仕事をしていましたが、当時の北九州市にはそういった語学教育や事業を行う法人がありませんでした。北九州市の国際会議で通訳をしていた時に「国際都市にはそのような企業が必要」と勧められ、何も考えずに「じゃあ、会社にしようか。」と。だから、会社をつくるということすら知らなくて、アメリカ人の夫と、「株式会社、有限会社、合資会社、いろいろあるけど、株式会社かっこいいよね。」で、株式会社に。ほんとに何も知らずに会社をつくったので、創業当初は困ったことだらけでした。起業家育成塾というようなものは全くない時代でしたから、自分で勉強するしかない。挨拶まわりに行くと、「男だったら応援するけどね。」と面と向かって言われたこともありました。でも、いい先輩方がたくさんおられて、相談にのってくださって。私は北九州青年会議所（ＪＣ）に約 11 年間、300 人の男性の中に女性 1 人でいたのですが、その中で応援してくださる方や、取締役や株主になってくださった方もいらっしゃいました。だから、基礎はＪＣでしたね。今もＪＣのつながりを強く感じます。

「人間 死ぬまで発展途上人」これは私の好きな言葉です。どれだけ工夫ができるか、よそがやれないことをどれだけやれるか、ということに誇りを持ちながら、全員がクリエイティブに仕事をしている会社です。

■英語との出会い

小学校６年生の８月６日から習い始めました。近所にキリスト教団の教会があって、そこの牧師さんが子どもたちに英語を教えていたのです。それまで私は、ピアノ・そろばん・習字…といろいろな習い事をしていましたが、叔母が「もう時代は変わるよ。そろばんじゃなくて電子計算機の時代だし、英語の時代だよ。」と言って、その牧師さんのところに連れて行ってくれたのです。彼は教え方が上手かったし、ほんとに英語がわかって教えていらっしゃったから、楽しくて。この先生との相性ですね。すぐに英語を大好きになりました。

だから、私が子どもに英語を教える時には、楽しさを教えます。英語の使い方の例外とか、私がアメリカに住んでいたこととか、そういう話を子どもたちに教えると、子どもたちの英語力はぐんぐんついてきます。

昨年、英語のプリスクールを始めました。アウルズでは、子どもたちの英語教育というのは、言葉を教えるのではなく人間教育を英語でする、ということだと信じています。日本の事がわからないとグローバル人にはなれません。ですから、日本語教育だけでなく日本のこともしっかり学びます。でも、日常生活は全部英語。けんかの仲裁をする時には、じっと座って、両手を握って、目を見て、何か起こったのかを英語で尋ねます。きちんと謝るということは大切なこと。“Thank you”や“I’m sorry”が言えることは、国際人の基本です。このように、幼児英語教育においては、英語を教えるのではなく、英語を使って人間教育をすることを重視しています。

■プライベート

私は飛行機に乗ることが大好きです。これまで 90 ヵ国くらい行きましたが、サンフランシスコでの生活が長かったので、やっぱりアメリカが好きです。他に、いつ行ってもここは住めるなと思うのはドイツです。

最近は、ボランティアで走り回っていることが多いですね。1919 年以来ジェンダー平等を達成する活動を展開する「国際ゾンタ」のメンバーです。2018 年からの２年間は日本のガバナーとして活動しました。2020 年からの ２ 年間は国際理事として問題解決に取り組みます。世界中の素晴らしい仲間とともに、今後も目標達成に向け活動し続けることが生きがいです。

★編集者から一言★

会社経営の貴重なお話から、英語教育に対する熱い思いまで、インタビュー時間を超えたくさんのお話を楽しく聞かせていただきました。
世界中で７人しかいない国際ゾンタの国際理事に就任される木下社長。とどまることなく進み続ける木下社長のさらなるご活躍を祈念しております！

■略　歴

北九州市若松区出身。平成元年９月に㈱アウルズを設立。同社、代表取締役社長。

■次号予告

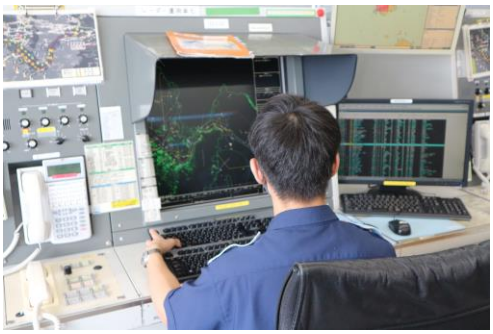
次回のトップ・インタビューは、
㈱不動産中央情報センター
代表取締役社長
濱村　美和　さんです。
次回もお楽しみに！

運用管制官 「管制課程１期生」

関門海峡海上交通センター

全国の海上交通の要衝に設置されている海上保安庁の海上交通センター。その中でも、航路が狭く湾曲して見通しが悪く、潮の流れが速いうえ変化も激しい関門海峡の安全を日々見守り続けているのが、関門海峡海上交通センターの運用管制官のみなさんです。

「運用管制官」とは船舶が安全に航行できるよう、レーダーで航行船舶の動静を把握し、船舶の安全な航行に必要な情報の提供や、法令に基づいた航行管制を行うスペシャリストです。


レーダーで船舶の位置を把握する

管制業務はこれまで、研修を受けた海上保安官が務めていました。しかし、運用管制官には国際標準に則った高い技能が求められ、さらに、ＡＩＳ（船舶自動識別装置）の普及により、運用管制官が情報提供を行う船舶が増加したこと、また東日本大震災のような非常災害時に船舶に対する移動命令の権限の付与など、役割が複雑化しています。そこで、これまでの研修に加えて、高い管制技能・英会話能力を持つ運用管制官を継続的に養成する管制課程（2 年間）が平成 30 年４月に海上保安学校に新設されました。

幅広い専門知識や英語力を習得した管制課程 １ 期生は今年の春卒業し、現在各地で運用管制官として活躍しています。

その一人、宮崎友輔さんは、北九州市出身で関門海峡海上交通センターに配属され、地元の海の安全を守ることにやりがいを感じています。受験のきっかけは、知人から管制官の話を聞いたことでした。英語科で元々英語が得意だった宮崎さんにとっては語学力を活かせる仕事でした。一方で、海や船舶に関する仕事でありながら、泳ぎや乗り物が苦手という宮崎さん。海上交通センターは陸上勤務であり、船酔いする人でも海の安全を守る仕事ができます。また、予め決められた勤務時間での交替勤務体制になっていることから、女性も働きやすい職場環境となっています。

船舶の動きを見る宮崎友輔さん

今後もますますニーズが高まる運用管制官。管制課程学生の採用試験は、年１回、例年９月に行われています。
詳しくは海上保安庁 HP をご覧ください。
https://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/siken.html

新会員のご紹介

成田屋

業　種：イベント業
所在地：小倉南区 2-4-26

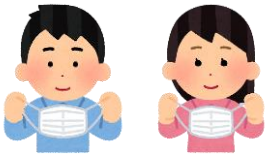
弊社は各種イベントの企画から提案・設営・運営・音響・照明の受注が可能です。また、チラシ、ポスター印刷・各種デザイン・各種ノベルティ作成・広報物の受注も行っております。

スナQマスク　好評販売中

インフォメーション

「抗菌加工布製コットンマスク」と、暑い季節に最適な「吸水速乾エチケットマスク」の 2 種類を販売しています。数量限定の商品です。ご注文はお早めに！
注文書は当協会 HP からダウンロードできます。 http://www.kppa.jp

※グレー、ピンクは完売しました



【お申込み・お問合せ先】
一般社団法人北九州港振興協会　　担当：岡﨑、久保
電　話：093-321-5900
ＦＡＸ：093-321-1695
メール：kyoukai@kppa.jp

◆編集後記◆

今年度に入って、ようやく４ヶ月が経過しました。例年であれば、ボート天国など、海の日を中心とした様々な催しの準備や実施で、あっという間に時が過ぎるのですが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ほとんどの事業ができず、また、テレワーク（在宅勤務）等もあり、時間が経つのがとても遅く感じられます。そのような中、当協会の目下の目玉事業は、おかげさまでたいへんな好評を博していますスナＱマスクの販売と、夏のイベントができずに持て余している（？）体力と時間を、協会が管理運営する駐車場の除草作業やみなとオアシス門司港エリアの環境整備などです（笑）。ところで、昨年、北九州港開港１３０周年記念日に国の登録を受けた「みなとオアシス門司港」運営事業においては、７月１８日（土）から、土日祝日限定ですが、レンタサイクル事業が始まりました。
門司港にお越しの際は、是非、楽しんでいただければと思います。

未だに、新型コロナ感染症の終息は見えてきませんが、何につけても大切なのは、体力と気力です。くれぐれもご自愛いただきますよう、暑中お見舞い申し上げます。

（M．Y）

発行人：一般社団法人　北九州港振興協会
北九州市門司区西海岸１丁目２－７
ＴＥＬ093-321-5900　　ＦＡＸ：093-321-1695
監　修：北九州市港湾空港局
ご意見、ご要望は右記までご連絡ください　E-mail：kyoukai@kppa.jp